

産学連携実装化プロジェクト成果報告会

～「大学研究」×「ビジネス」のマッチング～

日時

令和7年3月19日(水) 午後2時～午後5時30分

会場

京都経済センター3階 F会議室 & KOIN

参加費
無料

プログラム

- 14:00～ 産学連携実装化プロジェクト概要説明
- 14:15～ 産学連携実装化プロジェクト成果報告会
- 16:40～ マッチング交流会

大学研究に興味がある
事業会社や起業志望者向け

会場参加: 50名(先着順)
オンライン参加: 上限なし

※マッチング交流会は会場参加のみ

産学連携実装化プロジェクト採択者



小椋 紀彦 京都大学 成長戦略本部 インフラ先端技術産学共同研究部門 特定助教

「橋梁の定期点検支援技術の高度化と維持管理プラットフォームの構築」

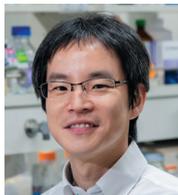
本研究では、橋梁の維持管理を図る点検プラットフォームを開発する。具体的には、360度カメラとLiDARを用いて、動画データから点検した橋梁を地図上で管理できるマッピング機能と、橋梁の復元図面を容易に作成する機能を開発し、点検業務の省力化・省人化を目指す。



寺本 好邦 京都大学大学院 農学研究科 森林科学専攻 准教授

「木材用塗膜の潜在劣化の検出による早期診断技術の開発」

本研究では、木材の劣化時期を予測する技術を開発する。具体的には、中赤外分光と機械学習を組み合わせることで、目に見えない潜在的な塗膜の劣化を検出し、木材の劣化時期を予測するものであり、塗り替えコストの削減や環境負荷の軽減、さらには木材利用の拡大にも寄与する。



野田口 理孝 京都大学大学院 理学研究科 生物科学専攻 教授

「万願寺とうがらしの生産性向上を実現する植物診断Webアプリの開発」

本研究では、「万願寺とうがらし」の生産性向上を目的としたシステムのプロトタイプ開発を行う。具体的には、植物診断アルゴリズムを基にしたWEBサービスを開発し、新規就農者でも高度な栽培技術にアクセス可能とすることにより、農業の担い手拡大や生産性向上に貢献する。



半場 祐子 京都工芸繊維大学 応用生物学系 教授

「脱炭素・省エネルギーを実現する農業照明用パルス電源LEDの性能評価技術開発」

本研究では、農業照明の性能評価を行う技術を開発する。具体的には、「炭素安定同位体比」という新たな指標を用いて農業照明の性能評価を行うことにより、作物に最適なパルス幅・波長比率の推定モデルを構築し、エネルギーコストの削減と作物の生産性の最大化を目指す。



舟場 正幸 京都大学大学院 農学研究科 応用生物科学専攻 教授

「ブランドビーフの安定的生産を可能にする飼養技術開発」

本研究では、子牛の高い死廃問題を解決するための技術開発を行う。具体的には、臍帯(さいたい)が太い子牛は死廃が少なく1頭当たりの肉量も多いことから、臍帯が太くなる理由を解明し、飼養技術を開発することで、安定的な繁殖農家経営と上質な牛肉生産を可能とする。

申込方法

【締切】 令和7年3月18日(火) 17時

お申込みは下記WEBサイトからお願いします。

<https://www.astem.or.jp/whatsnew/event/20250219-40646.html>



お問合せ

産学連携実装化プロジェクト事務局

TEL (075) 391-1141

E-mail:kkic@astem.or.jp



【主催】 京都市 公益財団法人京都高度技術研究所

【協力企業】



株式会社ジェイ・エス・ビー
ジェイ・エス・ビーグループ